

学校法人 コミュニケーションアート 大阪スクールオブミュージック専門学校

【2024年5月1日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	2	<p><ワンランク上の学校を目指して 今年度の取り組み> ミッション/理念/学校の特徴について定め、全職員に共有をしているが、さらに上を目指し「全職員が同じ想いを持つ」「行動として実践できる」「実施した結果を受けて次のプランを構築できる」強い個を育てる1年間の取り組みにする。</p> <p>「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションとし、建学の時から変わらない「3つの教育理念」 ・実学教育 ・人間教育 ・国際教育 「4つの信頼」 ①学生・保護者からの信頼 ②産業界からの信頼 ③高校からの信頼 ④地域からの信頼 を得られるように学校運営をしている。 特色は『産学連携教育』により、技術・知識とともに業界での現場経験を繰り返し体で覚えることで、即戦力として活躍できる人材の育成を実現している。 音楽・ダンス&エンターテイメントを通して、人に元気や感動を与えられる即戦力の人材を育成することで社会に貢献したいと考えている。</p>	<p><ワンランク上の学校を目指して 今年度の取り組み> 滋慶学園グループのミッション/理念/学校の特徴を継承し繋いでいく必要がある。 そのために職員研修を行い学びの事業計画を立て実施する。大切なことはその学びを通して学生さんに満足していただくこと。1人ひとりを大切にするために、私たち職員は学び、職業人教育を通して社会に貢献していく。 「実学教育」…実力(生き抜く力)を養う教育 「人間教育」…人間性/社会人基礎力を身に付ける教育 「国際教育」…多様性を受け入れ国際的な視野を持つことができる教育 + 「テクノロジー」…ITやAIを活用できる力 「英語力」…英語を道具として活用し世界に発信できる力 「マネジメント」…スペシャリストからマネジメント人材へ マネジメントとは ・企画 自分の専門技能を企画し商品にする ・集客 お客様を考え“売れる”“お客様を集める”ことができる ・運営 仲間とともにやり抜くこと、また黒字で経営ができる 上記の力を身に付け将来の業界の発展に貢献できる人材育成を目指す</p>
	1-2 学校の特徴は何か			
	1-3 学校の将来構想を抱いているか			

2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	<p>滋慶学園グループが計画する第7期5カ年計画3年目。第7期1年目に定めた「質の高い人材育成」のため4年制・3年制学科にシフトした教育への移行は順調に進んでいる。</p> <p>事業計画については、長期・中期・短期計画を、年度ごとの決算と合わせて修正し、実現可能な事業計画を作成して実行している。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ている。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>DXの取り組みにも積極的に取り組んでいる。 グループ全体DX委員会→学内DX委員を選任し 学内全職員にDXIによる効率化と成果の安定に取り組みを実施している。</p> <p>情報セキュリティーに関するポリシーを打ち出し 情報システム化によるリスクを低減するようにする。</p>	<p>＜ワンランク上の学校を目指して 今年度の取り組み＞ 攻め…4年制学科「高度専門士」3年制学科量から質への挑戦。在校生数の65%が4年制/3年制学科の学生となる。変化する業界に向けて喜ばれる人材を送り出すことを続けることで4つの信頼を得ることができる学校を目指す。</p> <p>守り…滋慶学園グループでは情報セキュリティ管理者ガイドラインを公表し、リスクマネジメントを行う。安心・安全の学校づくりへのチャレンジを積極的に取り組んでいる。</p> <p>上記の実施について、事務局長/教務部長が中心となり、全員が重点項目を理解し実施できる組織を作り上げるため尽力する。学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>
	2-5 事業計画は定められているか			
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか			
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか			
	2-8 意思決定システムは確立されているか			
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか			

<p>3 教育活動</p>	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	<p>2</p>	<p><ワンランク上の学校を目指して今年度の取り組み> 4年制学科の在校生には「マネジメント・プロデュース」の学びとして大阪・関西万博への取り組みやスタートアッププロジェクトなどに取り組んでいる。 スペシャリスト(職人)の育成とマネジメント人材の育成へのチャレンジを行う。</p> <p>4年制学科…マネジメント 3年制学科…クリエイター 2年制学科…スペシャリスト として目指す仕事＝学ぶ期間として学科運営を行っている。</p> <p>本校独自の「産学連携教育」により業界に喜ばれる人材を育成、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>最大の課題は退学者について。 大幅な退学者数、退学率の低減に取り組むことができているが辞めない学校へは辿り着いていない。 また卒業生全員が第一専門職種に就くことができるように「授業作り」「クラス作り」「個別支援」の強化を行う必要がある。</p>	<p><ワンランク上の学校を目指して今年度の取り組み> 夢を持って入学した学生さんたちがやる気を持続しもっと学びたいという仕組みを構築する。 主体的に取り組む、一人ひとりにあったカリキュラム 教職員の目標は「辞めない学校＝就職できる学校」とする。 学生さんの満足度＝出席率 と設定し一定期間の出席率を定期的に確認し、その数値に基づいて授業の見直しを行う。「出来ない事が出来るようになる授業」を作り上げる。</p> <p>1. 就職希望者全員就職 2. 退学率 0% 入学者の全員卒業 <上記における主な教務活動> 時間割は一人ひとり作成。 プロジェクトや実習授業は適切な量と内容を一人ひとりに配慮した形で提供する。</p> <p>産学連携企業プロジェクトを通じて 将来の職業のやりがいを経験できるよう企業とのオリエンテーション～実習実施～フィードバック/振り返りを充実させる取り組みを実施する。</p>
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか			
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか			
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか			
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか			
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか			
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか			
	3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか			
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか			
3-18 資格取得の指導体制はあるか				

4 教育成果	4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	現状の課題は様々な理由で退学者がいること。 病気怪我、精神疾患などの理由によるものについては、サポート方法について要検討が必要だが、進路変更、意欲低下など、自ら選んだ進路を1年以内に変更し、退学に至ることについては学校側の大きな課題であると考え。	<ワンランク上の学校を目指して> 早期化する就職活動に対し、前年度より就職出陣式、企業説明会を実施。企業と連携したインターンシップの「早期化・長期化」での取り組みを実施。第一専門職種へのチャレンジを促進し、学生さんの好きなことを仕事にするためにスケジュールを大きく変更させる。
	4-20 資格取得率の向上が図られているか		教育成果目標は「好きなことを仕事にする」というところになるが、辞めない学校＝就職できる学校となることを考え、満足度の高い授業と産学連携を通じて即戦力の人材育成を行うことで就職率の向上を図る。	退学率では、学園グループ内に「チームゼロ」を組織。昨年度に引き続き勉強会を続け、事例検討から対策を学ぶ。
	4-21 退学率の低減が図られているか		就職では、開校以来、就職希望者の全員就職を達成しているが、これからの課題としては「第一専門職種への就職」として、新たな就職活動へのチャレンジを行う。	卒業生インタビューを広報と教務で連携して行いHPへの掲載を行う、在校生にも閲覧できるようにすることで将来の職業観を養う。
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか			

5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	社会・業界の変化を受け、モーションキャプチャースタジオを設置。リアルエンターテイメントの世界とヴァーチャルエンターテイメントの学びをすることができる大阪唯一の施設を準備したことにより、学びの幅が大きくなった。	<p><ワンランク上の学校を目指して> 早期就職活動実施により、企業研究、業界研修、自身の適正を見極める活動など、キャリアセンタースタッフと連携し第一専門職種への就職を実現する</p> <p>入学前情報 ↓ 在校中情報 ↓ 卒業後情報 を1つのシステム内で数値化し支援できるシステムへと改善したことで多角的に数値で学生情報を知ることができるようになった。今までの感覚値と併せて、学生さん一人ひとりを良く知り対応できるように変化する。</p>
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか		テクノロジーにより職業にも変化が生まれたが、どの仕事にも共通する「人に喜びや感動を届ける」ということを大切にお客様にどうやって喜んでいただくか？を考える創造力(クリエイティビティ)を学ぶ産学連携教育の充実は必須である。	
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか		教育課程編成委員会や各企業様よりアドバイスをいただきながら、教材、授業、実習内容などしっかりと調整し、学生さんに適切な内容を届ける必要がある。	
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか		学生支援のため、個別相談カウンセリング、健康診断、学費相談、一人暮らしサポートなどを引き続き行い、すべての取り組みを就職支援につなげていけるように連携し学校運営を行う。	
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか			
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか			
	5-29 保護者と適切に連携しているか			
	5-30 卒業生への支援体制はあるか			

6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	教育環境(施設・設備、機材等)の整備は業界の変化に合わせて対応したいと考えているが、日進月歩の進歩とこれからの業界で重要になる設備について良く検討して選定を行う必要がある。	<p><ワンランク上の学校を目指して> 実習などが実施できるようになり、学生さんには十分な量が提供で聞いている。次の段階として、学生さんの目指す仕事につながるような内容面について、各企業との打ち合わせを行い改善する必要がある。</p> <p>作業ではなく仕事、その仕事を体験できるような実習、研修のプログラムを増やすように授業づくりを行う。</p>
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		海外での学びに関しては海外実学研修を再開させる。費用の高騰により参加できなかった学生さんも多かったが、オンラインを利用し、ニューヨークの姉妹校からの授業を実施。国際部との連携により学びの機会が常に用意できる状態がある。	
	6-33 防災に対する体制は整備されているか		防災に関して必ず防災訓練を行い、職員・学生ともに意識を高め、有事の際には対応できるようにしている。	

7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	2	大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、ルールに従って募集活動など行っている。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		入学前から在学中において、学費納入サポート、奨学金手続きなど一人ひとりのサポートを手厚くおこなっている。	大学全入時代といわれ、全国800校大学、2700校専門学校に対して18人口は110万人。大学の半分が定員割れしている中で「夢を持つことの大切さ」「好きなことを仕事にすることの素晴らしさ」を伝え続ける。またテクノロジーによって変化した職業に対して、必要とされるスキルをどのように身に付けるべきか？など、丁寧に広報活動を行う。
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか		学納金は明示した内容以外での徴収は行わず家庭状況に合わせて延納分納などの納入方法を準備している。	特に進路指導は高校2年生12月頃には方向性が決まるため、早期認知～早期接触の機会を作り、長い期間をかけて職業観を養い、学校の事を理解していただく広報戦略にシフトしている。
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか			入学定員100%を目指し広報活動を行う。

8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。単年の予算組みだけではなく、長期修繕計画なども立て、堅実な運営をしている。	予算は決算とし、正確かつ実現可能なものにするために十分考慮された状態で事業計画を作成する。
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		財務基盤の安定に対して大切な「入学定員充足」また「退学の防止」を行い、数値的な目標を立て、次年度の計画においては数字の推移とともに定期的な修正を加えながら、確実に達成できる数字に基づいて予算組みをしている。	そのために広報の見直し(入学定員・入学見込み)、教務の見直し(在校生数、進級数、卒業生数)を常に数値で確認し定期的な修正予算を作成する。事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか		次年度事業計画、5ヶ年の収支予算を立て、学校の財務基盤を安定させるための戦略戦術ともに計画を立て実施する。	さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか			

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理士システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。	<ワンランク上の学校を目指して 今年度の取り組み> 情報セキュリティポリシー策定により、リスクマネジメントを実施。安心・安全な学校づくりを行う。 2024年度より個人情報取り扱いに対するJPACの研修に加えてIBMのサポートによる滋慶学園グループのセキュリティポリシーに基づく勉強会を行う。 すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか			
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか			
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか			

1 0 社会 貢 献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	本校には、「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を 実践し、「4つの信頼」①学生と保護者からの信頼、②産業界からの信 頼、③高等学校からの信頼、④地域からの信頼を得られるように学校 運営をしている。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えてい る。 大阪市西区、北区、淀川区と滋慶学園グループの包括連携協定が結 ばれ、教育や福祉に関する協力体制が構築された。地域に根ざした学 校として、大阪市北区依頼の万博機運醸成の取り組み参加、職業体 験セミナー実施など新たな取り組みも実施した。	<ワンランク上の学校を目指して 今年度の取り組み> 大阪市西区と連携した地域貢献の取り組みとして 学園祭を実施。売上の一部などを寄付することをあらかじめ企画に盛 り込み、学生自身が「大阪市西区 地域貢献」という意識を持ち、地域 社会とのネットワークを持つことの大切さを考える機会にしている。 引き続き、高校軽音部の支援として指導者の派遣、パフォーマンス支 援、他校とのネットワーク作りなど、音楽エンターテインメントの振興への 取り組みを行っている。 滋慶学園COMグループ社会貢献プロジェクト、骨髄移植推進キャン ペーンミュージカル「明日への扉」を実施。 中学校の職業理解支援等々、出張体験授業のサポートを行う。 万博への取り組みの課題も多数いただきながら、 大阪市西区から地域をネットワークし、学生自身が住みやすい、通い やすい街づくりを実行していけるように取り組む。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、 支援しているか		地域のお祭り「西六祭り」では司会やイベント運営だけではなく、学生 が制作した万博機運醸成の盆踊りパフォーマンスを実施し、地域住民 や参加者の方へのアピールを行う。 1994年初演、社会貢献ミュージカル「明日への扉」を2023年10月実施。 教育庁など行政関係者も多数来場され、教育への理解を深めていた だく。引き続き日本骨髄バンク、夏目雅子ひまわり基金等への募金な どを実施している。	